

キャピタルオープン

設 定 日 : 1979年1月11日

償 還 日 : 無期限

決 算 日 : 原則1月10日

収 益 分 配 : 決算日毎

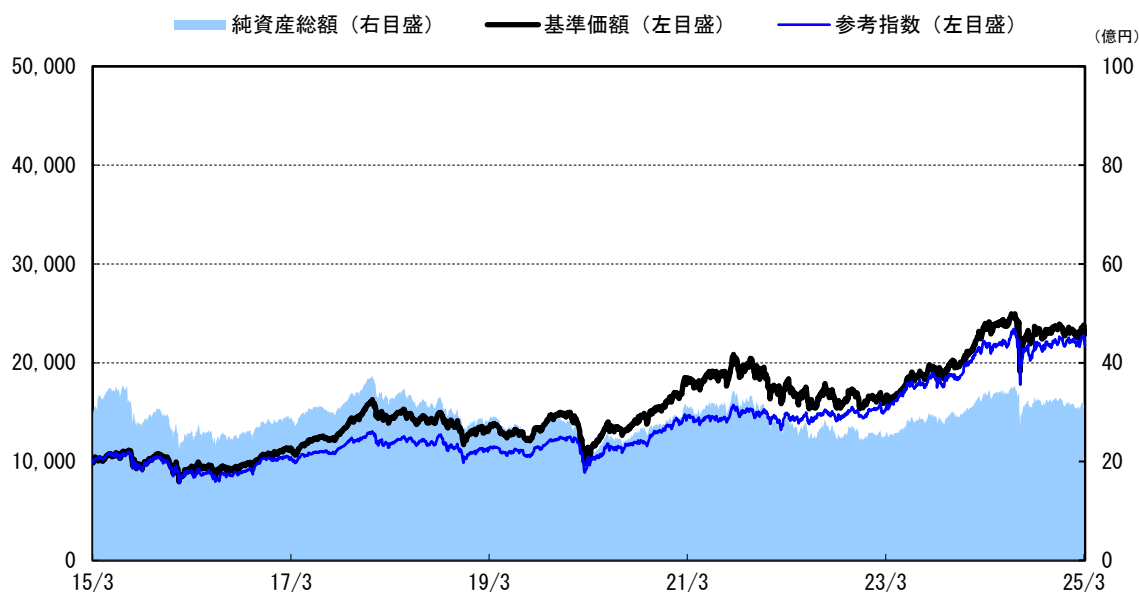
基 準 価 額 : 16,190円

純資産総額 : 30.86億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運 用 実 績

＜基準価額と純資産総額の推移＞
 (2015年3月末を10,000として指数化)



※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。
 ※基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意下さい。
 ※参考指数は、「TOPIX（東証株価指数）配当込み」です。
 ※TOPIX（東証株価指数）に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は株式会社J P X 総研または株式会社J P X 総研の関連会社に帰属します。

＜基準価額の騰落率＞

	1 カ月	3 カ月	6 カ月	1 年	3 年	10 年
当ファンド	1.42%	-4.14%	-1.01%	-4.57%	26.95%	128.84%
参考指数	0.22%	-3.44%	1.81%	-1.55%	47.24%	117.38%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜分配金実績（税引前）＞（円）

21/1/12	22/1/11	23/1/10	24/1/10	25/1/10
60	60	60	60	60

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの内容

<資産構成比率>

株式	98.5%
うち先物	0.0%
現金その他	1.5%

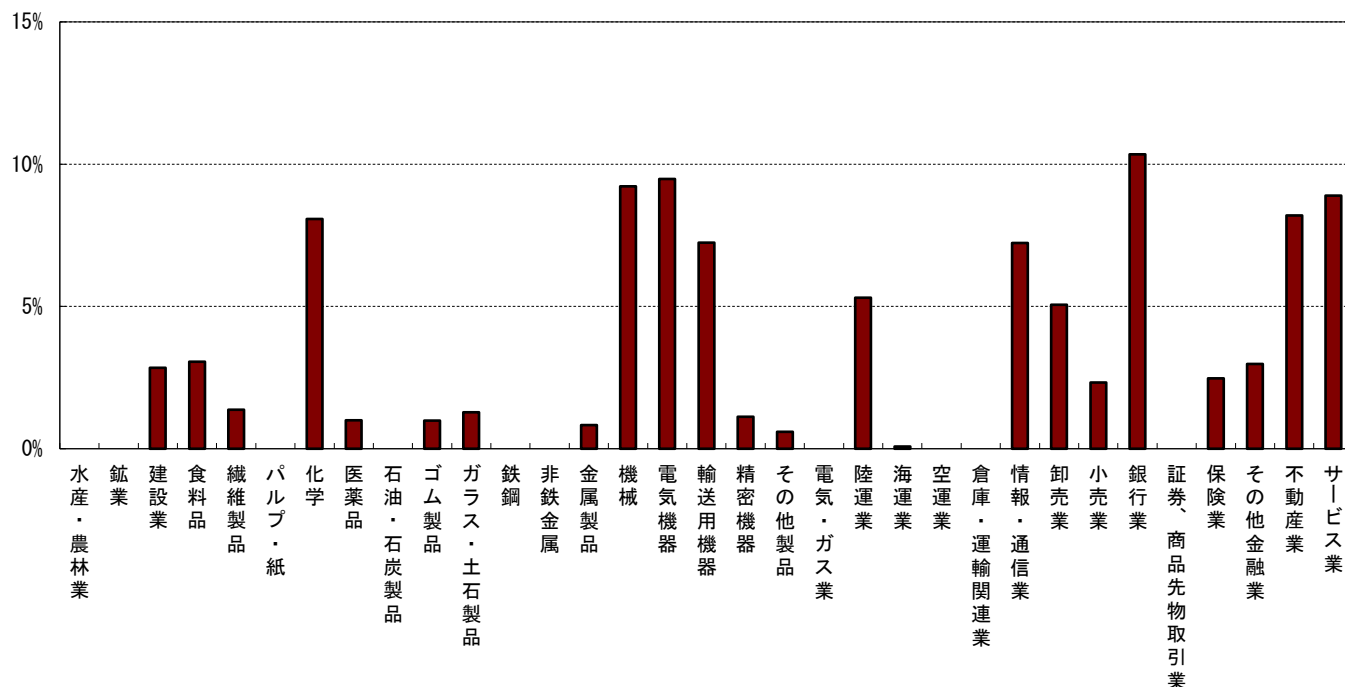
<組入上位10銘柄> (銘柄数 87銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	オープンハウスグループ	不動産業	2.62%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.61%
3	めぶきフィナンシャルグループ	銀行業	2.59%
4	コンソルディア・フィナンシャルグループ	銀行業	2.54%
5	住友不動産	不動産業	2.54%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.46%
7	松田産業	卸売業	2.36%
8	ダイセキ	サービス業	2.36%
9	スズキ	輸送用機器	2.35%
10	マキタ	機械	2.31%

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

<業種別構成比>



<市場別構成比率>

プライム	99.3%
スタンダード	0.7%
グロース	0.0%
その他	0.0%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
2,000億円未満	34.1%
2,000億円以上 5,000億円未満	16.9%
5,000億円以上 1兆円未満	19.1%
1兆円以上	29.9%

※「資産構成比率」「組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

※「業種別構成比」「市場別構成比率」「規模別構成比率」は組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

3月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比マイナス0.87%、日経平均株価が同マイナス4.14%と下落しました。米国の経済指標の結果を受けて、米国景気に対する過度な不安が後退したことや、来月から導入予定の「相互関税」を巡り、米国大統領が多くの国に減免措置を与える可能性に言及し関税政策への警戒感が和らいだことなどが株価の上昇要因となったものの、米国大統領がテレビ番組のインタビューで関税政策などの影響による景気後退入りの可能性を明確に否定しなかったことや、米国が輸入自動車への追加関税を発表したことを背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどが株価の重しとなり、国内株式市場は下落しました。

東証33業種分類では、鉱業、保険業、不動産業などの15業種が上昇する一方で、海運業、その他製品、サービス業などの18業種が下落しました。

◎運用概況

2025年3月の株式市場は大型株-0.32%、中型株+1.03%、小型株+1.85%と大型株が小幅に調整する一方、中小型株が小幅な上昇となりました。そのような運用環境のもと、優良な中小型割安成長株に集中投資する当ファンドの基準価額は+1.42%上昇し、市場全体を上回る運用成績となりました。

◎今後の見通し

構造的な競争優位を有し、成長性のある銘柄に割安な株価水準で投資します。中長期的に市場全体を上回る運用成績を目指せる運用環境にあると認識しており、積極的なリスクテイクを行います。

2024年の一部の大型株への資金の一極集中相場を経て、競争力および成長性の高い優良中小型銘柄のPER（株価収益率）は非常に割安な水準まで調整しております。これらの銘柄は株価に大きな上昇余地があるとみられ、中長期的に市場全体を上回る運用成績に資するものと判断しております。

2024年から2025年初にかけて、当ファンドが投資する優良小型株の一部に株式公開買付け（TOB）が複数件実施されております。これは当ファンドが保有する優良割安中小型株の時価評価が非常に割安となっている証左です。

担当ファンドマネージャーが特に着目している中期的なテーマは①次世代半導体、②自動車電装化、③データ活用／IoT、④デジタルトランスフォーメーション、⑤クリーンテクノロジー、⑥サーキュラーエコノミーなど、社会を大きく前進させるポテンシャルのある技術です。これらのテクノロジーは今後の日本経済の成長をけん引する主役たちです。

当ファンドの目的はお客様に中長期に高い運用成績をお届けすることです。“財産を信託して下さっているお客様の明るい資産計画に貢献すること”を最優先課題と捉え、追い風の日も逆風の日も全力を挙げております。今後とも当ファンドをご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. わが国の金融商品取引所上場株式および海外の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）株式の中から、成長性や収益性などを勘案して選定した成長株を主要投資対象とします。
2. 真に実力のあると見られる国内および海外企業の成長株を中心に重点投資を行なうほか、市況の情勢に応じて機動的な売買も行ないます。

※ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ**商品分類**
購入単位

追加型投信／国内／株式
販売会社が定める単位
※販売会社の照会先にお問い合わせください。

購入価額
信託期間
決算日
収益分配

購入申込受付日の基準価額
無期限(1979年1月11日設定)
毎年1月10日(休業日の場合は翌営業日)
毎決算時に、利子・配当等収益は原則として全額を分配します。売買益からの分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金申込受付日の基準価額
原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。
※当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※配当控除の適用があります。
※益金不算入制度は適用されません。

換金価額
換金代金
課税関係**■手数料等の概要**

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し2.2%(税抜2%)以内

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料**信託財産留保額**

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 ファンドの日々の純資産総額に対し年率0.792%(税抜0.72%)

(信託報酬)**その他の費用・手数料**

監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社
受託会社 : 三井住友信託銀行株式会社
販売会社 : 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/
〔コールセンター〕 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- ・ 投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様は帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・ 当ファンドは、主に株式を投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク
投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク
外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

- その他の留意事項
- ・ 当資料は、投資者の皆様へ「キャピタルオープン」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
 - ・ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
 - ・ 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
 - ・ 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
 - ・ 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **日興アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

金融商品取引業者等の名称			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第24号	○			○
西日本シティ銀行証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第181号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。